



地域の宝

★12★

但馬牛物語

渡辺 大直

5月11日の但馬家畜市場。競りが終わった後、10頭ほどの子牛が残されていた。来年9月7日から宮城県で開かれる第11回全国和牛能力共進会のために選ばれた牛だ。

この共進会は5年ごとに開かれ、各県から選抜された牛たちが一堂に会して優劣を競う。和牛のオリンピックともいわれる和牛界最大のイベントだ。世界ブランド神戸ビーフだの、和牛の改良資源だのと評価される但馬牛だが、体格が小さく、発育も遅いので苦戦を強いられてきた。通常、但馬牛は約30カ月まで「肥育」という太らせる飼育方をして肉にするが、全



県代表候補の子牛たち。来年の共進会に向け激しい競争は既に始まっている

国共進会では半年も早い24カ月齢で仕上げなければならぬ

第6回は、私が初めて但馬大臣賞を受賞した。

大臣賞を受賞した。

大臣賞を受賞した。

大臣賞を受賞した。

大臣賞を受賞した。

大臣賞を受賞した。

大臣賞を受賞した。

大臣賞を受賞した。

産地の誇り懸けた闘い

牛の担当になった年で、何も分らないまま走り回っていた記憶しかないが、勝利の美酒のご相伴にあずかる幸運に恵まれた。この時チャンピオンになった枝肉の写真と内閣大臣賞状のパネル、彼らの父牛「菊安土井」の骨格標本が、但馬牧場公園の博物館に展示してある。あれから25年。パネルも色あせてきた。そろそろ新しいのが欲しいところだ。

目玉になる出品区がある。同じ種雄牛の子牛たちで、繁殖雌牛のグループと肉牛のグループを組んで競う。この出品区でチャンピオンになると、父種雄牛は繁殖雌牛の父としても、肉牛の父としても優れた能力を持っていることになる。そのため各県ともエース種雄牛の子牛を立てて、力を入れる。

兵庫県の「芳悠土井」の子牛で勝負することになった。「芳悠土井」は、第9回に出

場して優等賞5席に入った実績を持つ。但馬牛の中では大柄で、体格のバランスが良く、霜降りを入れる実力もナンバーワンのエース種雄牛だ。

和牛農家には、雌牛を飼って子牛を生産する「繁殖農家」と、子牛を肥育する「肥育農家」がある。冒頭の子牛たちは、肉牛グループの候補として2回の発育検査で選ばれ、出場を目指す肥育農家にあっせんするために集められた。同18日には淡路家畜市場でも同様のあっせん会があった。この他に「繁殖」と「肥育」を両方行う「一貫経営農家」にも候補牛がいる。

これらの牛たちには、来年7月に県代表の肉牛グループ3頭が決まるまで、熾烈な競争が待っている。牛も大変だア…。

■筆者プロフィール■
わたなべ・ひろなお
1954年、新温泉町浜坂出身。県職員として畜産行政に長年携わってきた。県立但馬牧場公園「但馬牛博物館」館長。